

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>					0.40			<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.17	-	-	<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.50	3.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.21	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.14	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.14	3.0	-	
<b>1.3 吸音</b>				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.0</b>	0.38	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 室温制御</b>				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.57	3.0	-	
2 負荷変動・遅延制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能				3.0	0.32	3.0	-	
4 ゾーン別制御性				3.0	0.11	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2.3 空調方式</b>				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.4</b>	0.18	-	-	<b>3.4</b>
<b>3.1 昼光利用</b>				<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 昼光率		普通教室昼光率(U)=2.1		4.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 グレア対策</b>				<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御		室内カーテン及び庇による日射遮蔽によるグレアの制御。		4.0	1.00	3.0	-	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
<b>3.3 照度</b>				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-	
<b>3.4 照明制御</b>				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気環境</b>				<b>3.6</b>	0.27	-	-	<b>3.6</b>
<b>4.1 発生源対策</b>				<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		告示対象外及びF の建材を採用		4.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>				<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.38	3.0	-	
2 自然換気性能		自然換気開口面積が居室面積の1/10以上確保されている。		5.0	0.25	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.38	3.0	-	
4 給気計画				-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 機能性</b>				<b>4.2</b>	0.40	-	-	<b>4.2</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>				<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画		バリアフリー法における望ましいレベルを満たしている。		4.0	1.00	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>				<b>4.3</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		教室の天井高さH2.75m確保している。		5.0	0.36	3.0	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3 内装計画		教室やラウンジの空間では、壁や床材に木製の仕上げ(フローリング、天然木練付壁のエコマテリアル)を採用し、生活空間としてやわらかいインテリアを意識している。		4.0	0.64	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>				<b>4.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		外壁:防水形複層塗材 外部手摺:亜鉛メッキの上リン酸処理、トイレ毎にSKを設けている。バルコニーを利用して、教室の外部ガラスの清掃や給排気口のメンテナンスが安全に容易に出来る。PSやEPSのメンテナンスが共用部側からでき、日常的なメンテナンスが可能。等		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				5.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.7</b>	0.31	-	-	<b>3.7</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>				<b>3.8</b>	0.48	-	-	
1 耐震性		重要度係数1.25。		4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>				<b>3.4</b>	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	

	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	普通教室:床 フローリング,壁 EP(Pb12.5+t9.5),天井 吸音用化粧石膏ボード(Pb19.5)	5.0	0.09			
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08			
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:VLP、排水:FDPA、Eは不使用。	5.0	0.15			
	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23			
	2.4	信頼性		4.2	0.19			
	1	空調・換気設備	非常時の空調はEHP、一般室はGHP、換気機器複数台設置。	5.0	0.20			
	2	給排水・衛生設備	節水型衛生器具、マンホールトイレ、雨水処理設備設置。	5.0	0.20			
	3	電気設備		3.0	0.20			
	4	機械・配管支持方法	耐震クラスS	5.0	0.20			
	5	通信・情報設備		3.0	0.20			
	3	対応性・更新性		3.3	0.29			3.3
	3.1	空間のゆとり		4.0	0.31			
	1	階高のゆとり	階高3.8m以上	4.0	0.43	3.0		
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率= 0.114	4.0	0.57	3.0		
	3.2	荷重のゆとり		3.0	0.31	3.0		
	3.3	設備の更新性		3.0	0.38			
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17			
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17			
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11			
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11			
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22			
	6	バックアップスペース		3.0	0.22			
	Q3	室外環境(敷地内)			0.30			4.2
	1	生物環境の保全と創出		3.0	0.30			3.0
	2	まちなみ・景観への配慮	歩道に沿って歩道用空地を敷地内に整備し、地域の安全に配慮。	5.0	0.40			5.0
	3	地域性・アメニティへの配慮		4.5	0.30			4.5
	3.1	地域性への配慮・快適性の向上	広場や歩道用空地の確保。	5.0	0.50			
	3.2	敷地内温熱環境の向上	空地率=81.78%、緑被率+中・高木の水平投影面積率=38.76%	4.0	0.50			
	LR	建築物の環境負荷低減性						3.8
	LR1	エネルギー			0.40			4.3
	1	建物の熱負荷抑制	学校:PAL低減率=36.0%、集会所:PAL低減率=67.8%	5.0	0.30			5.0
	2	自然エネルギー利用		3.7	0.20			3.7
	2.1	自然エネルギーの直接利用		2.6	0.50			
	2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電設備の設置。	5.0	0.50			
	3	設備システムの高効率化	太陽光発電設備・LED照明設備の採用、ERR=37%	5.0	0.30			5.0
		集合住宅以外の評価(ERRによる評価)	ERR=37%	5.0				
		集合住宅の評価						
	4	効率的運用		3.0	0.20			3.0
	4.1	モニタリング		3.0	0.50			
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
	LR2	資源・マテリアル			0.30			3.6
	1	水資源保護		3.8	0.15			3.8
	1.1	節水	節水コマ、省水型機器を用いている。	4.0	0.40			
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.6	0.60			
	1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用をしている。	4.0	0.67			
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33			
	2	非再生性資源の使用量削減		3.8	0.63			3.8
	2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07			
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24			
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメントを杭に採用	5.0	0.20			
	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	パーティクルボード(掲示板)、集成材(家具、膳板)、木質フローリング(教室、ラウンジ)	5.0	0.20			
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05			
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24			
	3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.22			3.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32			
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68			
	1	消火剤						
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50			
	3	冷媒		3.0	0.50			
	LR3	敷地外環境			0.30			3.4
	1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルコストCO2排出率 = 7.4%	4.0	0.33			4.0
	2	地域環境への配慮		3.1	0.33			3.1
	2.1	大気汚染防止		3.0	0.25			
	2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50			
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25			
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25			
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
	3	交通負荷抑制	適切な駐車スペースの確保。	4.0	0.25			
	4	廃棄物処理負荷抑制		4.0	0.25			
	3	周辺環境への配慮		3.1	0.33			3.1
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40			
	1	騒音		3.0	0.33			
	2	振動		3.0	0.33			
	3	悪臭		3.0	0.33			
	3.2	風害・砂塵、日照障害の抑制		3.1	0.40			
	1	風害の抑制		3.0	0.63			
	2	砂塵の抑制	スプリンクラーを設置、グリーンサンドの採用。	4.0	0.14			
	3	日照障害の抑制		3.0	0.23			
	3.3	光害の抑制		3.7	0.20			
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない。	4.0	0.70			
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			